

板橋区消防団運営委員会答申書

「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」

令和6年9月

板橋区消防団運営委員会

目 次

- 第1 諮問事項 (1)
- 第2 趣旨 (1)
- 第3 審議経過 (1)
- 第4 諮問に対する課題と検討 (2)
- 第5 検討結果による推進方策 (2)
- 第6 まとめ (5)

第1 諮問事項等

本運営委員会に対して、令和5年8月16日に諮問された事項は次のとおりである。

「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」

第2 趣旨

特別区消防団は、地域になくてはならない代替性のない存在であり、地域防災力の中核として、住民の負託に応えてきたところです。

さらに、昨年（令和5年）は、関東大震災から100年の節目の年であるなど、消防団への期待はさらに高まっており、東京の安全安心を守っていくためには地域防災力の中核を担う消防団が、将来に渡って更に充実し、消防団としての役割を果たしていく必要があります。

一方で、特別区においては、人口が2035年ごろに減少に転じ、2050年をピークに高齢化が進行すると予測されているほか、近年では、DXの進展によるテレワークなどの働き方の多様化や、単身世帯の増加による地域コミュニティの希薄化など、社会情勢は常に変化しているところです。

このことから、各消防団や各区の特性なども踏まえながら、変化する社会情勢に適応し、特別区消防団の組織力を向上させ、住民の負託に応え続ける方策について諮問を行うものです。

第3 審議経過

本運営委員会は、令和5年度に第1回、令和6年度に2回の会議を開催し、諮問事項に対する審議を行いました。

第1回板橋区消防団運営委員会

令和6年1月25日（木） 15時30分から17時00分

板橋区役所南館4階 災害対策本部室

第2回板橋区消防団運営委員会

令和6年9月11日（水） 15時30分から17時00分

板橋区役所南館4階 災害対策本部室

第3回板橋区消防団運営委員会

令和7年1月28日（火） 15時30分から17時00分

板橋区役所南館4階 災害対策本部室

第4 諮問に対する課題と検討

今回の諮問内容に対して、以下の2つの課題が挙げられており、課題について検討すべき事項は次のとおりである。

【課題1】

地域防災の要である消防団として、変化及び成長し続けていくためには

(検討1-1)

入団して活動を継続したいと思える組織の活性化方策について、区の地域性や消防団の現況（構成等）を踏まえた検討

(検討1-2)

最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について、資機材電動化や新しい技術を取り入れた資機材の導入の検討

【課題2】

活動力を地域で発揮していくことで、地域住民の負託に応え続けるためには

(検討2-1)

消防力維持のため、計画的な人材育成方策についての検討

(検討2-2)

地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策のための検討

第5 検討結果による推進方策

(検討1-1)

入団して活動を継続したいと思える組織の活性化方策について、区の地域性や消防団の現況（構成等）を踏まえた検討

(現況)

※添付資料1 消防団員数の現況

(課題)

消防団が組織の活性化を図り、変化及び成長し続けて行くためには、消防団員の人数を充足させることが重要だと感じる。しかし現状は、30代までの若い消防団員の比率が低く、社会と同様に高齢化の傾向にある。

(推進方策)

①着てみたいと思える魅力ある新型防火衣の導入

東京消防庁防災部消防団課が、令和6年6月に消防団の魅力向上及び充足率向上に向けた取組として、特別区消防団員全団員に対して消防団員活動に関するアンケートを実施している。

※添付資料2 消防団課アンケート用紙

- ②多様な年齢層や職業等からなる消防団の構成を活かして、団員から団員への講話や研修を実施する。その結果、知識や見識が深まるとともに、身近な仲間の体験談等に影響を受け、自分自身のモチベーションの向上に繋がることもある。
- ③消防団員の家族を対象とした、消防署開放等において、様々な体験をしてもらい、小さなお子様がいる団員家族等に対して家族の理解を得られるような環境作りを実施する。
- ④防災訓練等において、消防団員が地域住民に対して講話を実施するなど、消防団の魅力や重要性を伝える。
- ⑤大学や大規模工場等に積極的に入団を働きかけ、団員を増やすことで消防団の活性化に繋げる。

(検討1-2)

最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について検討する。

(現況)

- ・災害現場等においては、消防署隊と連携した給水等の対応を行っている。
- ・気象庁のデータによると、東京都の8月の平均気温は、この145年間で4.6℃上がっており、そのうちここ7年間だけで劇的に2.1℃上がってきている。
- ・火山対策に関しては、東京消防庁火山災害対策基本方針に基づき対応している。
- ・活動1件ごとの出場等通知書を紙ベースで報告している。

(課題)

- ・消防署隊と連携した給水等の対応を行っているが、十分とはいえない。
- ・消防隊に配置されている冷却ベスト等が消防団には配置されていない。
- ・ライフラインを途絶させる降灰による被害については、都内では一般的に関心が薄く、いざという時に対応できない。
- ・紙ベースの通知書での報告なので、事務量も増え、迅速さにも欠ける。

(推進方策)

- ①夏場の高温気象状況下の災害対応活動能力の低下を防ぎ、活動環境を改善するために、消防団にも冷却ベスト、瞬間冷却剤及び頸部冷却剤等の熱中症対策の資器材を配置する。

②降灰が発生した場合に備え、降灰袋等の資器材の配置及び活動体制の整備をする。ライフラインを途絶させないために、自助の支援を行う地域住民のリーダーとして、消防団が活動を行えるための指針を整備する

※添付資料3 (例) 克灰袋

③出場等通知書で報告している費用弁償業務のDX化により、分団長等の労務軽減を図る。(仮称)『消防団アプリ』により、出場の有無、GPS情報による位置確認、集計一元化により、報告をデータ化することにより出場等による事務業務を軽減する。

(検討2-1)

消防力維持のため、計画的な人材育成方策について検討する。

(現況)

- ・各資格等に応じて、統一した標示等はない。
- ・訓練等については、全分団を集合形式で実施している。

(課題)

- ・各団員の資格取得状況が分らない。標示するものがあれば、各団員の自尊心も高まり、自己有用感が高まる
- ・訓練実施場所や日時等の調整が必要となっている。

(推進方策)

①団員の活動服の左腕部分にワッペンを貼付して、各技能取得に応じて追加でマーク貼付等をする。標示することで、自信の誇りやモチベーションアップだけではなく、他の団員のモチベーションのアップにもつながる。

※添付資料4 (例) ワッペンイメージ

②検討事項1-2の推進方策②仮称『消防団アプリ』による災害発生所在の通知及び連動した地図表示機能に訓練モードを設け、実動訓練を行う場合に、実災害と同様の出場訓練、水利部署等の想定訓練を行うことができるなど、人材育成につながる。

また、訓練情報や資料の提供などにも活用する。

※添付資料5 (例) 具体的な活用方法

③オンライン上(仮想空間)の訓練場所に消防団員が参加し、団や分団ごとに、消防団連携活動訓練のシミュレーションが出来るシステムを構築する。場所を気にすることなく、日時の調整のみで、隙間時間でイメージ訓練が可能となる。

※添付資料6 (例) VRゴーグルの活用方法

(検討2-2)

地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策について検討する。

(現 況)

あらゆる機会を利用して消防団をアピールしている。

(課 題)

- ・救急車のひっ迫状況といった緊急性が高い情報とくらべると、全国区のメディアには、取り上げてもらえない。
- ・団員の防災訓練への参加については、日程調整や団員への負担等もあり積極的に参加しているとは言い難い。
- ・SNS等による広報も、コンテンツが圧倒的に少なく、効果が出ているとはいいづらい。

(推進方策)

- ①広報活動を強化し、全国区のTVやラジオ及び新聞やSNS等を利用して、消防団員の活動や重要性を広く周知する。消防団紹介コンテンツを量的に増やす。
- ②団員の負担となる部分はあるが、消防団員が地域防災力の中核として重要な存在であることを各団員が認識し、地域の防災訓練へ積極的に携わるとともに、トークコーナー等により消防団の魅力のアピールする。
- ③消防分団本部開放イベント等を実施し、消防団施設や資器材を見て触れてもらい、消防団のことを理解してもらう。

第6 まとめ

特別区消防団は、地域になくてはならない存在であり、地域防災力の中核として、都民の負託に応えてきたところです。

今年は、年頭早々に能登半島地震が発生し、多くの方々が犠牲になりました。

首都直下地震は30年以内に60～70%の確率で発生すると言われていています。万が一発生すると、消防団の組織力は、より一層重要になってくると思われれます。

東京の安全安心を守っていくためには、地域防災力の中核を担う消防団が将来に渡ってその役割を果たしていく必要があります。このことから、各消防団や各区の特性なども踏まえながら、変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策について審議検討をしました。

地域防災の要である消防団として、変化及び成長し続けていくための課題としては、入団して活動を継続したいと思える組織の活性方策の検討、最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について、新しい技術を取り入れた資機材の検討を行い、第5の検討1-1及び検討1-2で列記した推進方策を、そして活動力を地域で発揮していくことで、地域住民の負託に応え続けるための課題としては、消防力維持のため、計画的な人材育成方策についての検討、地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策のための検討を行い第5の検討2-1及び検討2

－ 2 で列記した推進方策として、それぞれ整理しました。

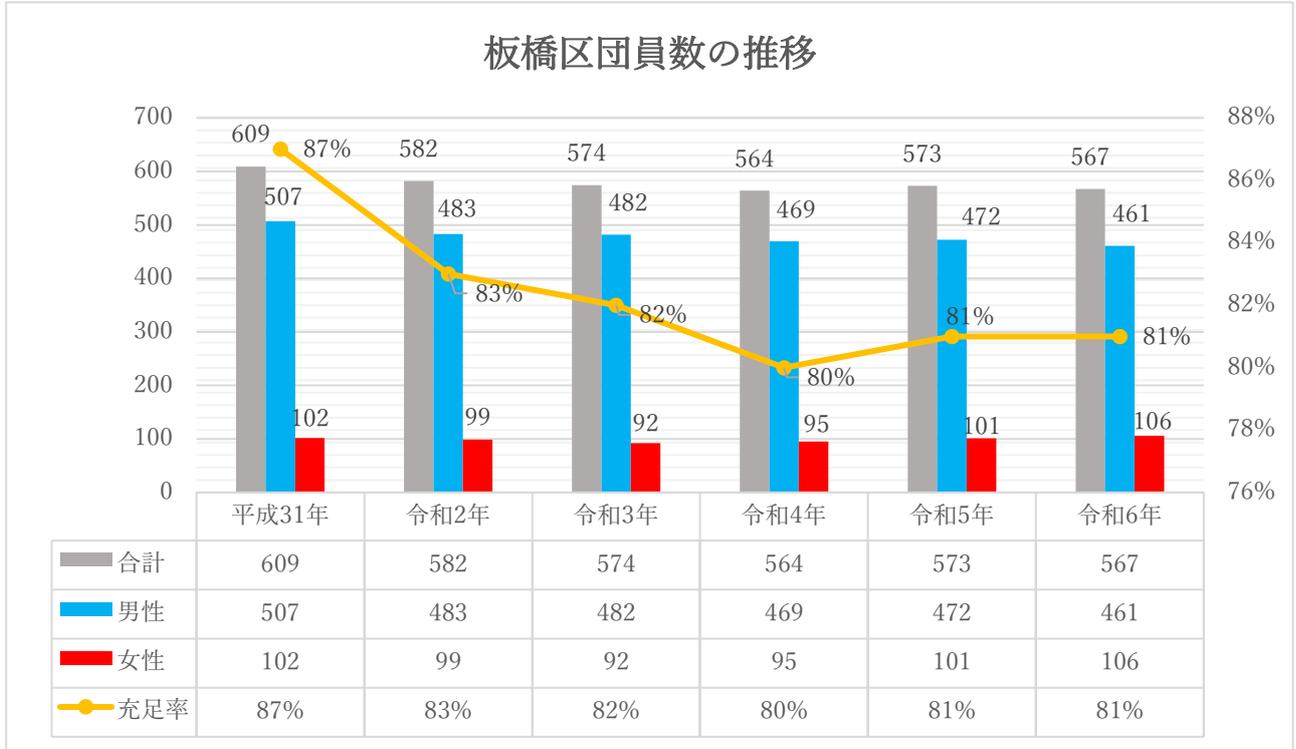
本運営委員会は、これらの推進方策をもって、諮問である「変化する社会情勢に
適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにある
べきか」に対する答申とします。

添付資料 1

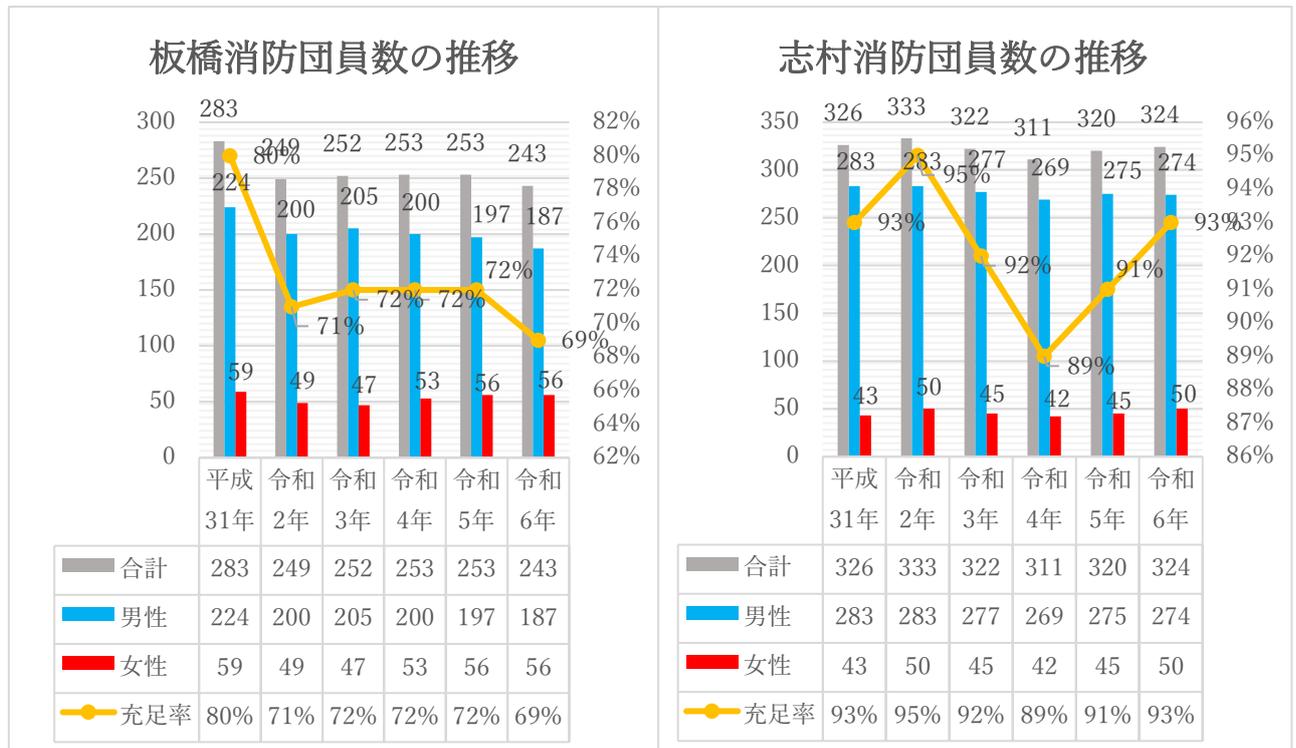
消防団員数の現況

1 板橋区消防団員数推移

各年1月1日現在値



2 消防団別推移



「特別区消防団アンケート調査票」

※インターネットで回答する場合は、以下 URL にアクセスし、ID 及びパスワードを入力してください。

例) <https://survey.esumi.jp/>
 ログイン ID:1234567 パスワード:7654321

【インターネット回答用二次元】



～ 以下を記載してください ～

【所属】	【階級】	【性別】	【年齢】
消防団	1. 団長 2. 副団長 3. 分団長 4. 副分団長 5. 部長 6. 班長 7. 団員 8. 大規模災害団員(班長) 9. 大規模災害団員(団員)	男・女	歳代

問1. 防火服について伺います。

1-1. 新型防火服は、どのデザインがいいですか。(○はひとつ)

※「防火帽」「しころ」「手袋」は現行のものを組み合わせると仮定してください。



1-2. なぜ、その防火服が良いと思えましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-------------|
| 1. 上衣のデザイン | 2. ズボンのデザイン |
| 3. 上衣とズボンのデザインのバランス | 4. 反射材の配置 |
| 5. その他 (|) |

裏面へ

問2. 訓練関係について伺います。

2-1. 火災対応訓練マニュアルを活用していますか。(○はひとつ)

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. 訓練で活用している | 2. 自己学習として使っている |
| 3. マニュアルは知っているが活用していない | 4. マニュアルの存在を知らない |

2-2. 令和5年度中に方面訓練場で訓練を実施したことはありますか。(○はひとつ)

- | | | |
|-------|-------|---------------|
| 1. ある | 2. ない | 3. 方面訓練場を知らない |
|-------|-------|---------------|

2-3. 操法訓練を実施する目的は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. 消火活動の基本的行動要領を習得するため | 2. 団員間のチームワークを醸成するため |
| 3. 活動に必要な体力をつけるため | 4. 操法大会のため |
| 5. その他 () | |

2-4. 災害現場で活動するにあたり、不安を感じていることはありますか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. 災害経験が無い | 2. 指揮を執ることができない |
| 3. 署隊とどのように接して良いか分からない | 4. 何をすればいいか分からない |
| 5. 不安は無い | |
| 6. その他 () | |

2-5. 災害現場で活動できる能力を身に着ける取組みとして、特別区消防団では実践的な訓練が推進されているところです。自己消防団で取り組んでいる項目を選択してください。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1. 災害対応に対する意識醸成 | 2. 火災対応訓練 |
| 3. 水利部署等の定着化 | 4. 指揮本部長の下命による積極的な消防活動 |
| 5. その他 () | |

問3. 資機材関係について伺います。

3-1. 各分団本部に配置している投光器について、使用した感想を教えてください。(1か2に○)

A	1. 明るい	2. 暗い
B	1. 軽い 又は 搬送が楽	2. 重い 又は 搬送が大変
C	1. 設定方法が簡単	2. 設定方法が複雑
D	1. 音が静か	2. 音がうるさい
E	その他 ()	



3-2. 各分団本部に配置している資機材の中で、更新すべき資機材があればその資機材名と理由を教えてください。(自由記載) ※特にない場合、記載の必要はありません。

更新すべき資機材	資機材名 ()
更新すべき理由	

ご回答ありがとうございました。2024年6月21日までに(消印有効)
同封の返信用封筒に入れて、ポストに投函ください。(切手は必要ありません)

克灰袋



富士山の噴火により、関東一帯に降灰被害が発生する。敷地内に降り積もった火山灰は、放置しておくとも10cm以上、降雨時3cm以上の降灰で、二輪駆動の車両が通行出来なくなる。また、降灰が原水に混ざり水質が悪化した結果、水道が飲用水に適さなくなり、断水も発生する。

降灰被害がある鹿児島市では、克灰袋を配布しており、集めた降灰の収集も行っている。東京でも、今後は降灰被害の対策を考える必要があり、住民で対応出来ることは住民で対応することが必要である。

消防団ワッペン



消防団のマークの下に、各技能取得に応じてマジックテープで貼付することが出来る丸いワッペンを配布する。標示することで、自身の誇りやモチベーションアップ及び若手団員の等の目標にもなり、モチベーションアップに繋がる。

具体的な活用方法

仮称『消防団アプリ』

火災通知機能例

火災 ○○区○○町 1 - 2

受信 押下

地図表示



案内開始

出場 押下

現着 押下

情報通信機能例

防災訓練予定

●月○日 10時から
△公園広場
初期消火
スタンドパイプ対応
応急救護
三角巾止血法
防災講話

防災訓練参加する

防災訓練参加しない





**仮想空間（VRゴーグル）を各分団に随時配置。
場所を選ばず効率的な訓練を目指す。**

仮想空間（VRゴーグル）使用のメリット

- ・実際の火災、災害現場と異なり、仮想空間での訓練は危険が伴わずリスクを避けつつ、危険な状況での対応を学ぶことが出来る。
- ・訓練実施後に改善点を指摘し、すぐに再訓練が出来るため短期間でのスキルアップが望める。
- ・実際の訓練とは違い消耗品や、設備が不要となるため訓練にかかるランニングコストの削減に繋がる。
- ・遠隔地にいる場合も同仮想空間内で訓練を実施できる事が出来るため、移動時間の削減が出来、訓練の頻度や参加率を向上させることが出来る。
- ・仮想空間では火災現場や他の災害シナリオをリアルに再現することが可能。煙や火の広がり、建物の崩落等、実際に起こりうる事態を体験出来る他、風速や天候、建物の構造等が自由に設計出来るため、通常の訓練では難しい状況も再現が可能。

仮想空間（VRゴーグル）使用のデメリット

- ・仮想空間は視覚的な再現は可能だが、熱さや煙の匂い、物理的な疲労感など、現実世界で感じる五感の繁樹を完全に再現することは難しい。
- ・プログラムされたシナリオに基づくため、予期せぬ出来事への対応力を十分に育てることが困難。
- ・VR機器の導入やハードウェア、ソフトウェアの導入が必要になり、初期費用のコストが高額になる可能性が高いこと。
- ・訓練内容がゲームのように捉えられてしまうと現実と違い真剣味に欠けてしまうこと。

※これらのメリットデメリットを考慮し、現実の訓練と組み合わせることで、より効果的な教育プログラムを構築することが重要。